

くらしの目線で市政を変える

こんにちは **日本共産党** 西野さち子 京都府議会議員 **西野さち子** です！

発行：2021年7月25日 連絡先：京都市伏見区新町10丁目381 日本共産党伏見地区委員会 Tel:075(611)9135 FAX:075(602)9117



京都市の巨額ムダ使い ストップさせたのは市民！



市議会で論戦22年 くらしの目線でムダ使い追及
共産党市議団・西野さち子副団長が語る！

「このままでは京都市財政は破綻する」「京都市は他都市より福祉施策にお金を使いすぎている」…市民しんぶんやマスコミ報道で京都市の「財政危機」が強調されていますが、その真相は？長年にわたり京都市のムダ使いを追及してきた西野さち子市議が質問に答えました。

【西野】門川市長はテレビや市民しんぶんなどを使い、「京都市の財政が大変だ」「このままいけば財政再生団体になる。企業なら倒産だ」「年間500億円足りない」などと言って市民を脅しています。確かに京都市の財政は裕福ではありません。でも、それは今に始まった事ではありません。

Q】もっと以前から財政の問題はあったと。

【西野】はい。前の榊本市長時代も財政非常事態宣言が出され2年間は新たな大型工事がストップしました。その時、醍醐と山科の境に計画されていた焼却灰溶融施設（写真）もストップしたんです。ところが門川市長になって何事も無かったかのように大型公共工事が動き出しました。

Q】それはひどいですね。

財政難でストップした計画が門川市長のもとで再び動き出した。



【西野】建設費170億円。動き出せば毎年20億円以上の運転経費が必要でした。開発途上の技術で、試運転では重大トラブルをくり返す、他都市でも財政負担が重すぎて悲鳴が上がるような施設でした。「こんな施設はいらない」と共産党と市民のみなさんの粘り強い運動の結果、99%完成していた施設が中止になったんです。裁判の結果、建設費など京都市の被害額は全て返ってきました。もし20年間動かしていたら総額600億円のムダ使い。市民の力でそれを止めたんです。

Q】すごいことですね。市議会では共産党しか訴えてこなかった問題が大きく動いた。ムダ使いもストップさせた。

【西野】市内高速道路計画もそうです。5路線の計画のうち、市民のみなさんの運動と共産党の論戦で3路線（総事業費2900億円）を中止に追いこみました。稲荷山トンネルは走る車があまりに少なく採算が取れず一般道路になりました。財政が大変になったのは市民の責任ではなく、数々の大型事業を進めてきた市長とそれを応援してきた与党の責任です。それなのに「福祉の予算が増えすぎている」と言って、市民がムダ使いをしているような言い方は許せません。

Q】過去の経過を見ても、今こそ不要不急の大型事業をキッパリ見直すべきですよ。

【西野】ところが、これだけ「財政が大変だ」と叫ぶ一方、ムダ使いは相変わらずなんです。今年の2月市会では与党・自民党の質問に驚きました。「国道1号線や9号線のバイパス道路が必要だ」「堀川通の五条～十条間にトンネルが必要だ」（総事業費1200億円）と。さらには「北陸新幹線を早く通せ」（総事業費2兆1000億円）とまで要求しています。ゼネコンにしかできないような大型工事、それもムダなものばかり。これらの事業が一つでも動き出せば、京都市の財政は吹っ飛びます。なのに市長は自民党に「検討します」と答弁し、国への要望にも全て入っているんですね。北陸新幹線は「京都市の負担が軽くなるよう国に求める」と言います。でも、自治体負担の割合は元々決まっていますから、京都市だけ特別扱いされるなどありえません。子どもだましのような話であくまで進める計画です。

Q】福祉施策を次々削りながら大型事業は聖域。「財政が大変」と言いながら全く説得力がないですよ。

【西野】その通りです。市民には敬老乗車証の改悪、国保料値上げ、保育料値上げ、公共施設の料金値上げ、市営住宅家賃の減免見直しなど、負担を押しつけているわけです。税金の使い方が全く逆ではないでしょうか。福祉を削って大型公共事業の財源にするなど許せるわけがありません。

Q】コロナ禍に市民へ自己責任をおしつける京都市の姿勢は国のひどい政治と同じですね。

【西野】はい。門川市長は常に「国の政治を実現するトップランナーだ」と言っています。国保料値上げも国の言いなり。行き過ぎたホテル誘致も菅政権と一体。海外で武力行使する自衛隊への若者名簿提供も他都市に先駆けておこないました。国の政治を変えることは市民生活にも直結します。10月までに必ず総選挙があります。ブレない政党、日本共産党とご一緒に政治を変え、くらしを守ろうと呼びかけたいですね。



焼却灰溶融施設600億円、高速道路2900億円をストップ！